



マツ枯れの激化やナラ枯れの増加に象徴されるような、健康低下というべき変化が里山に起きています



低下した樹木の萌芽能力などの変化に対応して、里山林を育ていく新たな施業技術が求められています



里山を健全に保つためには、様々な活用の仕方、社会全体が関わっていく必要があります

2008年10月28日火曜日

京都リサーチパーク西地区4号館 ルーム1

13:15 ~ 16:30 (開場12:45)

これからの里山の保全と活用

・・・里山を健康に保つために何をすべきか・・・

プログラム

話題提供

話題1 . 里山の健康低下

- ナラ枯れから見てきたこと -

黒田 慶子

話題2 . 里山林の健康を回復させるには

- 新しい施業技術の提案 -

大住 克博

話題3 . 里山の新たな活用と人の関わり方

奥 敬一

< 休憩 >

コメント [獣害対策とエネルギー利用を組み合わせた里山の新たな利用]

野間 直彦 (滋賀県立大学講師)

質疑と議論

かつて、一般に薪炭林として維持・利用されてきた里山林は、1950年代からの燃料革命、70年代の高度経済成長期を経てほとんどの利用が停止し、伐採も行われなくなりました。その後、現在の里山林では、マツ枯れの激化やナラ枯れの増加、また、樹木が再生する能力の低下や生物多様性の変容など、急激な変化と劣化が進行しています。広大な面積を占める里山林を健全に維持することは、地域環境とともに、CO₂吸収など地球環境保全の面でも重要です。しかし、このように里山林の「健全性」が危機的な状態にあることは、まだ森林に関わる技術者や団体・組織の間でも十分には理解されていないように思われます。このシンポジウムでは、里山林の危機的な現状を紹介しながら、これからの里山を健全に維持していくための保全と活用の方向性について、森林総合研究所が行ってきた近年の調査・研究結果を元に提言したいと思います。

京都リサーチパークへのアクセス

<http://www.krp.co.jp/>

- JR京都駅より、嵯峨野線(山陰線)丹波口駅下車、西へ徒歩5分 阪急・西院駅より 徒歩 約20分
- JR京都駅、地下鉄五条駅、京阪五条駅等からバスの便があります。京都リサーチパーク前下車、西へ徒歩5分
- 京都リサーチパークには有料駐車場がありますが、地球温暖化防止の観点からできるだけ公共交通機関でおいで下さい。



※ 参加費無料、参加申し込みは不要ですが、席数が120席と限られておりますことをご了承下さい。

【お問い合わせ】

独立行政法人 森林総合研究所 関西支所 連絡調整室
TEL: 075-611-1201(代)

Eメール: fsm-ren@ffpri.affrc.go.jp